

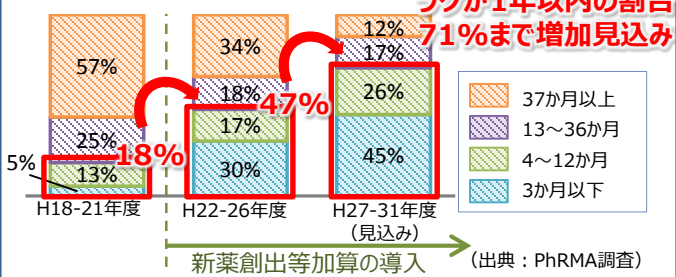
# より高い創薬力を持つ産業構造への転換

平成29年5月23日 経済財政諮問  
 会議 塩崎臨時議員提出資料

- ドラッグ・ラグを解消するとともに、次の革新的新薬の創出に資する薬価制度を実現する一方で、長期収載品の薬価引下げや後発医薬品への置換えを進め、**医薬品産業を高い創薬力を持つ産業構造に転換**
- **後発医薬品数量シェア80%目標の達成を平成32年9月とし、あわせて「医薬品産業強化総合戦略」の見直しに着手**

## ドラッグ・ラグの短縮

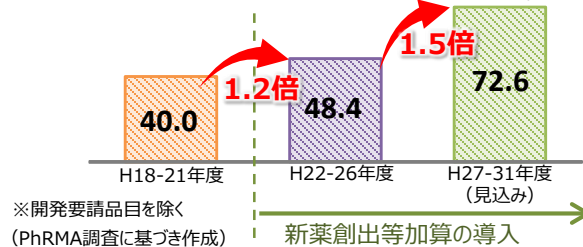
### 申請ラグの推移



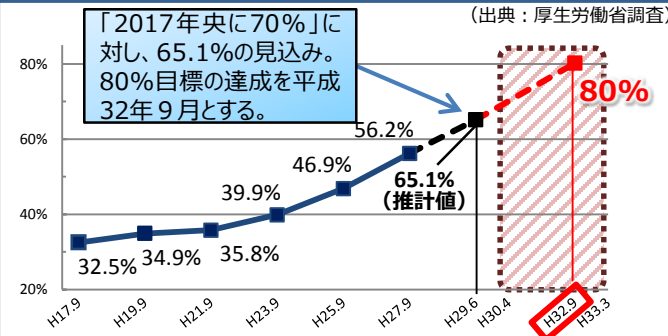
## これまでの主な成果

### 国内開発の大幅な増加

#### 国内申請品目数の推移（単年度当たり）

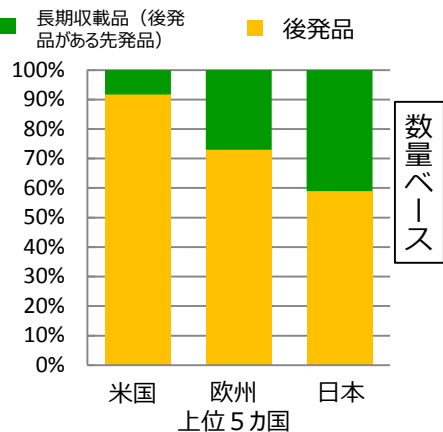


## 後発医薬品の使用促進



## 課題

- 次の革新的医薬品創出につなげる仕組み
  - 長期収載品に依存しない仕組み
- 特許切れ市場における長期収載品シェア（2016年）



## 新薬創出等加算の見直し・費用対効果評価の導入

- 革新的医薬品がより多く創出される仕組みとなるよう、**①対象となる医薬品の範囲、②企業要件**を見直し
- 費用対効果について、**①評価のための新たな組織・体制整備、②薬価引上げを含め、真に有効な医薬品を適切に評価**

## 長期収載品の薬価の見直し・後発医薬品等の使用促進等

- 長期収載品の薬価の引下げ等の措置、後発品の価格帯集約の在り方の検討により、**長期収載品に依存しないビジネスモデルを確立**
- **平成32年9月までに後発医薬品シェア80%目標を達成**。「医薬品産業強化総合戦略」を見直し、使用率低地域での取組等を推進。また、保険者において後発医薬品の使用率（概ね50%弱～80%強）の公表を目指す  
 ※使用率が最も低い徳島県（53.3%）が最も高い沖縄県（75.2%）と同等になった場合：財政効果 **▲40億円程度**（徳島県の医療費の1%強）（H28.3時点）
- バイオ医薬品及びバイオシミラーの研究開発支援方策等を拡充しつつ、バイオシミラーの**医療費適正化効果額・金額シェアを公表**（H27時点で **▲56億円、金額シェアは11%**）するとともに、**平成32年度末までにバイオシミラーの品目数倍増**（成分数ベース）を目指す

後発医薬品使用率 (H28.3時点・数量ベース)	
制度計	62.8%
制度内分布 (参考)	
協会 (H28.11分)	58.1～80.3%
共済 (厚労省調べ)	約50～80%
健保 (厚労省調べ)	約50～80%
国保 (H28.3) (都道府県別)	53.2～75.0%
後期 (H28.3)	51.9～72.0%